

2019年度「教育・研究年度計画書」の策定とその推進について (学長方針)

※ 以下は2019年度「教育・研究年度計画書」の策定とその推進について
(学長方針)の基本方針全文及び重要戦略の骨子となります。

人類の「共創的」未来へ

I 基本方針—長中期計画書— (グランドデザインに基づく教育・研究計画)

地球を情報ネットワークが包み込み、人類は歴史上初めて、人類を同時代人として共感できる場所に立った。人類の課題を共有し、未来への不安と期待を共有している。「類的存在」という19世紀の人間像は、現在の言葉として復権する。

大学の教育と学問はこの人類のネットワークの中にある。学問において、社会の課題や人類の課題はいつも意識されてきた。時にそれは、学問共同体、科学者共同体の課題でもあり、現在の人類の課題でもある。教育も学問も、そこでは、個々の人間の関心を類的存在としての人間の課題に向かわせる。それは、グローバリズムが経済の脱領域的性格に焦点を合わせることは本質的に異なる。

現在における人類の課題とは何か。それは、貧困の克服、病気の解明と克服、人類を前進させる技術、平和の戦略、人権の擁護、未知なるものの解明、人間そのものの解明などである。大学は、この人類の課題を解決するための拠点に他ならない。教育もそこに焦点がある。高校までの教育と大学教育との大きな違いはそこにある。大学は個々の学生の能力を高めるためだけの場所ではない。人類の課題へと学生を向かわせることこそが、大学教育の核心である。

本学の建学の精神で謳う「権利自由・独立自治」は、現在の人類にとっての課題であることは明白であり、未到の課題でもある。戦争やテロによる人間の権利と自由の侵害、貧困問題、人類にとって多くの課題が目前にある。学問の力によって、人類を前進させることができるのか。人類を前進させる技術を前へ押し進めるためには何が必要なのか。人類の「共創的」未来へ向けて、大学として常に問い続けていくとともに、各学部及び研究科が、教育・

研究において、いかなる人類の課題に挑戦しようとしているのかを鮮明にすることが、大学を前進させるのである。

現在、私立大学を取り巻く経営環境は、18歳人口の漸減や文部科学省による入学定員の厳格化なども含め、大変厳しい状況にある。しかし、こうした環境の変化に対し、大学側から教育・研究改革に関する建設的なビジョンを強く発信することが重要である。

こうした現況に鑑み、本学が進むべき指針を次のとおり掲げる。

1 教育

「人類の課題への挑戦～総合的教育改革の実質化」

総合的教育改革を実質化し、国際通用性のあるカリキュラムの確立を目指します。全学的な教学マネジメント体制を明文化し、アクティブ・ラーニングの拡充、留学促進、英語プログラムの拡充等、国際的な教育基盤を整え、学生が人類の課題と向き合えるように本学としての新たな教育方法を探求します。

2 研究

「共創による明治大学の研究のブランド化」

本学の研究ブランドを確立するため、グローバルな共創的研究拠点を育て、「明治大学といえば、この研究」と呼ばれる研究を増やしていくとともに、そのための体制を強化します。

3 社会連携・社会貢献

「明治大学と社会をつなぐ智の架け橋」

創業者出身地やキャンパス所在地をはじめとする各地域、また、社会のあらゆる分野で活躍する校友や父母とも連携・協力し、次世代を担う人材の育成と生涯教育を通して、より良い社会創生に貢献するため、教育研究の成果を社会に還元します。

4 国際連携

「多様なモビリティの促進 ～すべては学生の利益のために」

海外協定校との研究・教育の更なる連携を実現し、世界のグローバル化状況に果敢に挑む明治大学を目指します。「スーパーグローバル大学創成

支援」事業や「大学の世界展開力強化事業」の構想調書に示した達成目標も視野に入れながら、学生のニーズ、学部・大学院、各機関のニーズを的確に把握し、各機関との緊密な連携を通じて学生・大学院生のグローバルな資質・対応力の向上を図っていきます。

5 学生生活支援

「Students First! ～『他者』のために前へ」

学生生活全般の支援，スポーツの振興を強化し，すべての学生が充実したキャンパスライフを送ることができる環境を整えます。また，学生の就職支援を一層充実させるとともに，そのための体制を強化します。

6 男女共同参画とあらゆる性差を超えた平等の実現

「ここから始まるダイバーシティ-フレンドリーキャンパス ～共に前へ」

あらゆる多様性－性別の多様性，身体機能の多様性，文化的な多様性－を承認するとともに，それらの平等の実現に向けた実効性のある指針を策定します。「違い」にかかわらず，キャンパスのあらゆる場で平等に活動し，尊重される教育研究環境を整備します。

7 キャンパス構想

「長中期的ビジョンに基づいたグランドキャンパスデザインの 策定」

各地区の喫緊の施設整備課題に対応しながら，長中期的展望のもとに，創立 150 周年を見据えて，全キャンパスのグランドデザインを策定します。

8 大学の管理・運営

「開かれた大学運営を実現するための体制整備」

過去にとらわれない大学改革を進めるにあたり，組織の枠を超えた開かれた大学運営を実現するための体制を整備します。

Ⅱ 重点戦略 ー単年度計画書ー【骨子】

1 教育

「人類の課題への挑戦～総合的教育改革の実質化」

総合的教育改革を実質化し、国際通用性のあるカリキュラムの確立を目指します。全学的な教学マネジメント体制を明文化し、アクティブ・ラーニングの拡充、留学促進、英語プログラムの拡充等、国際的な教育基盤を整え、学生が人類の課題と向き合えるように本学としての新たな教育方法を探求します。

1 - 1 教育内容・方法の見直しと成果指標の確立

学生が学修を継続するなかで、主体的に学修成果を把握し、進路を選択できる能力を涵養するための課題に全学的に取り組めます。

- (1) 大学全体の3ポリシーの策定及び学部等の3ポリシーの検証
- (2) 学修成果の測定方法及び測定環境の整備
- (3) 教育改善(FD)の推進

1 - 2 総合的教育改革の実質化

総合的教育改革の実質化を通じて、人類の課題について共に思考し、その解決策を共に創造するための基盤となる教育体制を構築します。

- (1) アクティブ・ラーニングを活性化する授業運営体制の構築
- (2) 学生から見てわかりやすく骨太なカリキュラムの構築
- (3) 教育のグローバル化に対応した授業タームの設計
- (4) 複数学部の共同 English Track(ET)プログラムの推進
- (5) 大学の知的資源を最大限活用した学部間連携教育の展開
- (6) 新学部設置による教育の充実
- (7) 大学間連携による教育の充実

1 - 3 大学院、法科大学院、専門職大学院の改革

大学院全体の組織の見直しを視野に入れて大学院改革を推進し、大学院・専門職大学院の強化及び連携を図ります。研究型大学院とプロフェッショナル・スクールたる専門職大学院の各々の特徴をより明確にし、定員充足率及び優秀な人材確保の向上を図ります。

- (1) 大学院・専門職大学院と学部の連携強化
- (2) 研究の活性化及び高度職業教育の充実
- (3) 法科大学院における司法試験合格率の向上
- (4) 総合型専門職大学院構想
- (5) 各大学院の国際化

- (6) 卓越大学院プログラムへの申請

1 - 4 意欲ある学生の安定的な確保

全学の入学者受入方針（AP）に基づき、意欲ある学生を公正かつ適切な評価基準・方法で獲得するための改革を進めます。

- (1) 時代の要請に対応する入試改革
- (2) 付属校との連携

2 研究

「共創による明治大学の研究のブランド化」

本学の研究ブランドを確立するため、グローバルな共創的研究拠点を育て、「明治大学といえば、この研究」と呼ばれる研究を増やしていくとともに、そのための体制を強化します。

- (1) 拠点型事業の獲得・発展・継続及び私立大学研究ブランディング事業への対応
- (2) 研究の国際化推進
- (3) 研究にまつわるコンプライアンス
- (4) 外部研究資金の獲得
- (5) 産官学連携強化のための研究推進・成果活用
- (6) 研究の発信と共創化推進
- (7) 軍事利用を目的とする研究・連携活動の禁止

3 社会連携・社会貢献

「明治大学と社会をつなぐ智の架け橋」

創業者出身地やキャンパス所在地をはじめとする各地域、また、社会のあらゆる分野で活躍する校友や父母とも連携・協力し、次世代を担う人材の育成と生涯教育を通して、より良い社会創生に貢献するため、教育研究の成果を社会に還元します。

- (1) 学生の社会的成長を目指した地域連携事業の推進
- (2) 生涯学習と実践的学びの充実
- (3) 博物館等の充実
- (4) 国際社会への貢献
- (5) 次世代を担う人材育成ネットワークの構築
- (6) その他

4 国際連携

「多様なモビリティの促進 ～すべては学生の利益のために」

海外協定校との研究・教育の更なる連携を実現し、世界のグローバル化状況に果敢に挑む明治大学を目指します。「スーパーグローバル大学創成支援」事業，2016年度に採択された「大学の世界展開力強化事業」などの構想調書に示した達成目標も視野に入れながら，学生のニーズ，学部・大学院，各機関のニーズを的確に把握し，各機関との緊密な連携を通じて学生・大学院生のグローバルな資質・対応力の向上を図っていきます。

- (1) 戦略的提携校政策の確立：300名の学生をトップスクールへ！
- (2) 留学生受入れ体制の拡充
- (3) 学生送出しの強化：多様なニーズに応える
- (4) 学生による学生支援の拡充
- (5) 教員のモビリティと教育の質向上
- (6) 混住寮の建設：国内異文化環境の整備
- (7) 国際連携機構の活動の「見える化」

5 学生生活支援

「Students First! ～『他者』のために前へ」

学生生活全般の支援，スポーツの振興を強化し，学生が充実したキャンパスライフを送ることができる環境を整えます。また，学生の就職支援を一層充実させるとともに，そのための体制を強化します。

5 - 1 学生生活支援の充実

様々なバックグラウンドを持つ学生一人ひとりが充実したキャンパスライフを送れるように，学生生活全般に対する支援とキャンパス環境整備を図ります。

- (1) 経済的支援の充実
- (2) 正課外活動への支援
- (3) 学生参加型プログラムへの支援
- (4) 学生の懲戒及び処分に関するガイドライン策定
- (5) 学生相談体制の充実
- (6) 学生の健康管理と福利厚生への支援

5 - 2 明大カレッジスポーツのリブランディング

昨年来スポーツ庁を中心に「大学横断的かつ競技横断的統括組織（日本版NCAA）」等の全国的動きが加速しています。本学でも今までに入試

や奨学金など制度面での充実や各部指導者との連携を強化するなど多方面での整備を果たしてまいりました。更に、昨年度には、大学スポーツアドミニストレーターの設置を行い、特色ある事業創設の努力を行っています。しかしながら、現在本学には全学的なコンセンサスを得ながら「大学スポーツにおける先進的モデル」を企画立案し、運営する主体が学内組織内に明確な形で確立されていない状況があります。今、体育会学生の修学支援や大学スポーツブランド力向上にひたすら従事する専門的セクションを創設して、本学の大学スポーツ界でのプレゼンスを更に強化する必要性が高まっています。

- (1) 独立部局の創設と運営組織の設置
- (2) ハードウェアの整備とスポーツ学生サポートプログラムの連動
- (3) 既存システムの検証とダイバーシティ・地域、国際連携への対応

5 - 3 就職支援の充実

「就職の明治」に相応しい力強く、かつきめ細やかなサポートを継続します。主体的に進路選択ができるよう、キャリア教育については、国家試験指導センター、リバティアカデミー講座の活用等、低学年から進路に関して考える機会を充実させます。

また、大学院生の支援についても、各研究科と連携しながら、ガイダンス等を通し、支援していきます。

- (1) インターンシップの充実
- (2) 学部間共通総合講座「キャリアデザイン講座」の充実
- (3) 外国人留学生への就職支援体制の充実
- (4) 就職支援の充実

6 男女共同参画とあらゆる性差を超えた平等の実現

「ここから始まるダイバーシティ-フレンドリーキャンパス ～共に前へ」

あらゆる多様性－性別の多様性、身体機能の多様性、文化的な多様性－を承認するとともに、それらの平等の実現に向けた実効性のある指針を策定します。「違い」にかかわらず、キャンパスのあらゆる場で平等に活動し、尊重される教育研究環境を整備します。

- (1) 男女共同参画の推進
- (2) 障がいのある学生に対する修学支援の推進
- (3) 多様な性に配慮した施策の推進

7 キャンパス構想

「長中期的ビジョンに基づいたグランドキャンパスデザインの策定」

各地区の喫緊の施設整備課題に対応しながら、長中期的展望のもとに、創立150周年を見据えて、全キャンパスのグランドデザインを策定します。

7-1 キャンパス整備に関する方針

各キャンパスの喫緊の施設整備課題に対応しながら、長中期的展望のもとに、創立140周年及び創立150周年を見据えて、各キャンパス調和のとれた整備計画を策定し、順次整備を進めていきます。

- (1) 短期計画（おおむね2～5年後に実現を想定）
- (2) 中長期計画（おおむね6～15年程度での実現を想定）

7-2 「学長キャンパスデザイン室」（仮称）の設置

7-1における短中期的施設整備と長期的展望をつなぐキャンパスグランドデザイン策定のために、以下の具体化を図っていきます。

- (1) 「学長キャンパスデザイン室」（仮称）の新設
- (2) 学生の主体的な学びを育むキャンパス環境の整備
- (3) キャンパス情報の集約によるランニングコストの最適化

8 大学の管理・運営

「開かれた大学運営を実現するための体制整備」

過去にとらわれない大学改革を進めるにあたり、組織の枠を超えた開かれた大学運営を実現するための体制を整備します。

8-1 教学運営体制の整備

教育・研究の水準を向上させるための改革と運営を推進する体制と仕組みを整備します。

- (1) 大学ガバナンス
- (2) 教学マネジメントシステムの整備
- (3) 本学の求める教員像及び教員組織の編制
- (4) I R環境の整備・推進と内部質保証システム
- (5) 防災・危機管理の体制と態勢
- (6) 次世代への継承のための環境保全へ

8-2 戦略的広報の展開

戦略的広報では、大学のもつ「知と情報」を世界へ向けて積極的に発信する体制を整え、「明治 Value」を学内外に浸透させてまいります。

- (1) インナー広報の強化で「オール明治」の一体感を創出
- (2) オウンドメディア (Owned Media) を活用した広報展開
- (3) ヒューマンネットワークの強化
- (4) 戦略的なグローバル広報の推進
- (5) 危機管理広報への対応強化

8 - 3 財務戦略

学部教育の基盤を再建するために、全体予算の再検討を行い、学部予算への配分を見直します。

- (1) 教学財務委員会の設置
- (2) 明治大学教育研究振興基金の活用

以 上